

創刊110周年記念

誇れるふるさと

24地区リレー

〈vol.15〉

〈藤山③ 小学校歌〉

藤山小(安宅正哉校長、519人)の校歌は、前身の藤曲小が善福寺で開校してから80周年の節目に当たる1953年、記念事業の一環で制定された。同校のシンボルである2本のプラタナスの木になぞらえ、伸びやかに成長する子どもたちの姿を歌っている。

児童の成長、シンボルの木になぞらえ

校歌

一 しもふりやまの いたゞきに
白雲遠く わたるとき
きずけ文化の ふるさとを
希望はわかく たからかに
すなをな子らに そだちましよう
藤山藤山 われらの小学校

二 厚東のながれ たえまなく
産業宇部市 おこるとき
拓けゆたかな この資源
ちからをあわせ たくましく
はたらく友と なりましよう
藤山藤山 われらの小学校

三 山並青く 海ひろく
みどりのかぜの そよぐとき
仰げ母校の プラタナス
あかるい丘に すくすくと
正しくつよく のびましよう
藤山藤山 われらの小学校

開校80周年を記念し制定



校歌に登場するプラタナスの木(藤山小で)

作詞は市立高(現・宇部中央高)の校長だった詩人の岩松文弥さん、作曲は原田彦四郎さんが担当した。「藤山小学校百年史」によると、岩松さんは同校のプラタナスのある高台に立ち、地区二帯を展望しながら構想を練ったという。

「しもふりやま」や「厚東のながれ」「海ひろく」など、岩松さんが目にしたであろう地区の景観をダイレクトに表す言葉が登場する。3番の「仰げ母校のプラタナス あかるい丘にすくすくと 正しくつよくのびましよう」は、最も同校らしさが表れた象徴的なフレーズ。プラタナスは地区で

昨年、創立150周年の節目を迎えた同校は、地域と一丸となって記念式典の開催やマスコミキャラクター「ふじつちよ」の制作に取り組んだ。児童のアイデアを元に「たふじつちよは、右手にプラタナスの葉を握っている」。

「しもふりやま」や「厚東のながれ」「海ひろく」など、岩松さんが目にしたであろう地区の景観をダイレクトに表す言葉が登場する。3番の「仰げ母校のプラタナス あかるい丘にすくすくと 正しくつよくのびましよう」は、最も同校らしさが表れた象徴的なフレーズ。プラタナスは地区で

安宅校長は「プラタナスは学校のシンボルツリーで、子どもたちも愛着を持っていて。明るく、口ずさみやすい曲調も魅力」と話していた。